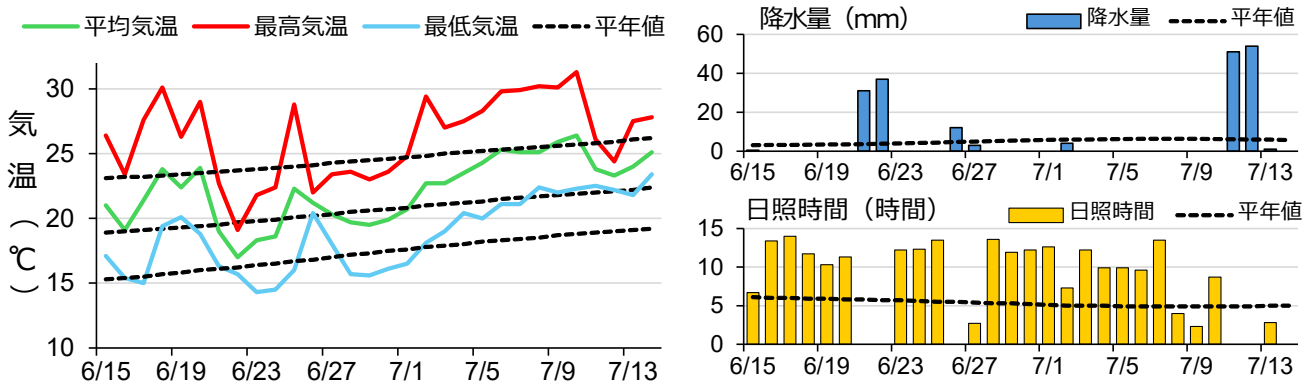


生育早い!! 草丈やや短く、葉色やや淡い

～生育に応じた追肥と水管理を!～

1 気象経過と生育状況

【気象経過】(6月15日～7月14日 アメダスポイント: 能代)



○6月下旬は一時的に気温は平年を下回り、まとまった雨の降る日がありました。7月に入ってから高温・多照・少雨傾向で推移していましたが、10日・11日には日降水量が50mmを超える豪雨となりました。

○仙台管区气象台が発表した1か月予報(7月9日現在)では、今後は気温はかなり高くなり、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多くなると予想されています。

【生育状況】

○7月15日現在の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種: あきたこまちR)の生育は平年に比べ、草丈はやや短く、茎数はやや多く、葉色はやや淡くなっています。高温傾向により、葉数の進展はかなり早く、葉数は平年よりも多くなっています。

○定点調査結果(7月15日)

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色
本年	64.9	518	12.2	41.2
平年	65.9	494	11.3	42.1
前年	71.7	447	11.4	41.1
平年比較	98%	105%	+0.9	98%
前年比較	91%	116%	+0.8	100%

※平年は過去10カ年の平均値。葉色はSPAD-502Cで測定

○ほとんどの定点ほ場において、幼穂形成期は過ぎており、全体の生育は早まっています。ほ場ごとの生育状況を確認し、適期の追肥や水管理、病害虫の防除を行ってください。

【減数分裂期と出穂期の予測】

○日平均気温から算出した「あきたこまち(中苗)」の出穂期は、中苗の5月20日植えで7月31日頃と予測され、平年よりも4日程度早まる見込みです。

○出穂期・減数分裂期の予測(アメダス能代)

田植日	減数分裂期(平年値)	出穂期(平年値)
5月10日	7月15日(7月20日)	7月25日(7月30日)
5月15日	7月18日(7月22日)	7月28日(8月1日)
5月20日	7月21日(7月25日)	7月31日(8月4日)
5月25日	7月23日(7月27日)	8月2日(8月6日)

※中苗移植。7月15日以降は平年値を使用。

※減数分裂期: 葉耳間長±0cmの茎が多く見られる時期(出穂期の10日前頃)

○今後の気象で高温傾向が続いた

場合、出穂期はさらに前進する可能性があります。

2 今後の水管理

- 強めの中干しは根を痛めるため、亀裂が入る状態が継続しているようなほ場では直ちに入水してください。
- 中干しを十分にできなかったほ場では、落水期間をやや長めとする間断かん水により地耐力を高めます。
- フェーン現象の際は湛水管理を行い、蒸散による水分の消費を軽減します。
- 減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、日平均気温20℃（最低気温17℃）以下の日が続き、日照が少ない場合には障害不稔が発生するおそれがありますので、深水管理を行います。

★カドミウム含有米の発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外の品種を作付けた場合は、出穂期前後3週間の計6週間（平年7月15日頃～8月25日頃）は湛水管理（水田に常時水を張り、土壌表面を空気に触れさせない）を厳守してください。また、本年は出穂が早まる見込みのため、湛水期間に注意してください。

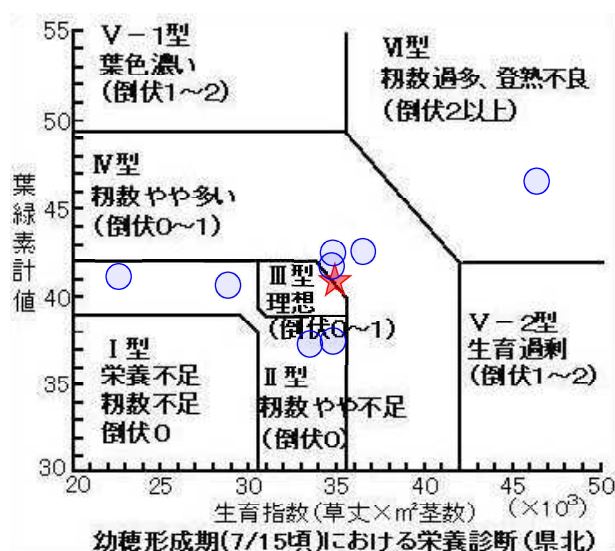
3 減数分裂期追肥の判断

減数分裂期（13葉期頃）の理想生育量

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育量 (×10 ³)	栄養診断値 (×10 ⁵)
上限値	74	529	12.2	40	38.4	15.0
理想値	72	504	12.0	39	36.3	14.2
下限値	69	479	11.8	38	33.9	13.0

※生育量は草丈×m²あたり茎数

- 7月15日時点の各定点調査ほにおける栄養診断結果は、右図のとおりです。草丈はやや短いものの、茎数が多いほ場が多いため、生育指数はやや大きい傾向にあります。幼穂形成期頃の理想的な生育指数は33.0前後です。



- 幼穂形成期以降、極端に葉色が低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。生育量が不足している場合や、葉色が低下している場合は減数分裂期を待たずに追肥を行ってください。
- 減数分裂期に葉色が濃く、草丈が75cm以上の場合、倒伏の危険性が高くなります。減数分裂期の追肥を控え、倒伏軽減剤の散布を検討します。

4 主要病害虫の防除

生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないようにしましょう！

【いもち病】

- 葉いもち予防剤（オリゼメート等）を使用しているため、時期的に防除効果が弱まっているため、ほ場内を巡回して発病がないかを確認してください。
- 7月下旬に上位葉で葉いもちの発生がある場合は、出穂15～7日前にコラトップ（1キロ粒剤12、豆つぶ、粒剤5）またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）のいずれかを散布するか、出穂直前と穂揃期に予防剤（トライフロアブル、ラブサイド剤又は

ビーム剤)の茎葉散布を行います。

◆農薬の使用回数に注意！

ラブサイド剤(ブラシン剤等含む)の成分である「フサライド」や、ビーム剤(ノンブラス剤等含む)の成分である「トリシクラゾール」の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【ごま葉枯病】

○砂質かつ、秋落ちしやすいほ場(CEC15meq/100g未満)で、幼穂形成期～穂ばらみ期に発病がみられる場合は、出穂直前と穂揃期にノンブラスフロアブルまたはブラシンフロアブルで防除します。

【斑点米カメムシ類】

- 病虫害防除所の発生予察情報(令和8年6月30日発行)によると、斑点米カメムシ類の発生時期は早く、発生量はやや多いと予想されています。また、今後も気温がかなり高くなると予想されます。登熟期の高温は、割れ粳の発生を助長するため、斑点米カメムシの被害が増加することが懸念されます。
- 出穂しているイネ科雑草が見られる畦畔ですくい取り数が多くなります。畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前(田植日が管内の盛期の5月20日の場合7月24日頃)までに終了してください。
- 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すると、40～50日の抑草効果が期待できます。
- 水田内のノビエや、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草の除草を徹底しましょう。除草剤の使用に当たっては、使用時期に注意してください。
- 斑点米カメムシ類の発生がやや多いと予想されることから、本年の薬剤防除は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回散布を基本とします。散布計画の策定と薬剤の準備を早めに行いましょう。

＜農薬の飛散防止と安全使用の徹底＞

- (1) 農薬散布時は、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。
- (2) 散布前に使用農薬のラベル等を熟読し、使用法を厳守してください。
- (3) 健康管理や服装・装備等を万全にし、涼しい時間帯に散布しましょう。
- (4) 農薬散布後は、防除用具の洗浄を必ず行いましょう。
- (5) 防除履歴を必ず作成してください。

★お知らせ★

秋田米栽培情報発信LINEにて、水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信しています。(秋田県内の水稻・大豆の生育技術情報、異常気象対策等)



★熱中症に注意！！★

こまめな休憩や水分・塩分の補給、帽子・空調服の着用などの対策で、熱中症を予防しましょう。

「ツキノワグマ出没に関する警報」が発令！！農作業中のクマ被害に十分な警戒を！

不明な点がありましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課(Tel.52-1241)までご連絡ください。